

令和6年度 国分寺市社会教育委員の会議 第6回定例会

日 時：令和6年11月19日（火）午前10時～

会 場：ひかりプラザ 5階 教育資料室

- 議長 : 第6回の国分寺市社会教育委員の会議を始めます。  
それでは、事務局のほうからお願いいたします。
- 事務局 : 次第に基づいて、報告事項から、始めさせていただきます。  
まず、1つ目として、「第66回全国社会教育研究大会 茨城大会」の大会資料冊子のほうが届きましたので、皆さんでご回覧してお目通しを頂ければと思いますがよろしいでしょうか。
- 議長 : はい。
- 事務局 : お手元に回ってきますので、ご確認をお願いしたいと思います。
- 議長 : 来年は会場はどちらになりますか。
- 事務局 : 来年は横浜です。
- 議長 : そうでしたね、横浜ですね。11月20日から21日の2日にかけてということで、参加費の予算がこれは何人分にとってあるのでしたか。
- 事務局 : 例年通り議長、副議長の2名です。
- 議長 : 例年どおり2名分は確保してあるということですが、せっかく近くでやりますので、参加して行けたらいいのではないかと思います。  
では、次、お願いします。
- 事務局 : 分かりました。続いて、「社会教育連絡協議会第2ブロック研修会について」です。  
11月9日午後、国立市役所にて、第2ブロックの研修会が開催されました。4名の委員にご出席を頂きましたので、何か一言ずつでも感想や報告等をよろしく願いいたします。
- 議長 : 11月9日、国立市役所で第2ブロックの研修会が開催されました。内容につきましては、事例報告が3つありまして、その後、それぞれのグループでディスカッションをして、その内容を報告し合って情報の共有をしてきたという形になります。今回4名の委員が参加いたしましたので、それぞれ少しどんな印象を持ったのかなどについて、お話を聞かせていただけたらと思います。  
A委員、いかがでしょうか。
- A委員 : はい。国立は公民館が1つしかないですが、市民参画というような形でいろいろな協力してくださる自治会なり、それからNPOなど組織がいろいろなところで関わっているのだなということが分かりました。特に産官学民で共創する地域コミュニティ化、コミュニティの活性化というのをずっと取り組んでいらっしゃるという報告が特に印象に残っています。  
やはり地域の方たちと、市役所の方と、それから大学側とのうまいコミュニケーションが生まれている中で、持続的に活動が続いているというのはすごく印象に残りました。

私とすると、どのようにすれば学校や、異世代、異年齢の人たちとうまくつながっていくことができるのかというところにとっても興味があって、お話をいろいろ聞かせてもらいましたが、誰かが火つけ役になっているということをすごく感じました。やはり地域の中でそういう人材を育てていくとか、見つけ出していくというのは、これからとても大事なのではないかなというのをとても感じました。

議長 : B委員、いかがですか。

B委員 : グループトークの際、私のグループはプレゼンに来ていた一橋の学生さんが同席してくれました。産、あと公、それから学生、それがうまく連携しているので、羨ましいなと思いました。もっと国分寺もそういうのをできないかしらと。

議長 : 私もこの会、参加させていただきました。発表者も熱がこもってまして、聞いていてわくわくするような、そんな研究会だったように思います。

やはりどの発表も地域の人たちを引きつけていく、いわゆるコーディネーター的な役割を持った市民をどううまく巻き込んでいくのかというところが、大きな要素だと思いました。

国分寺も地元の東京経済大学の学生さんたちが、最近いろいろとボランティアとか活動にご参加くださっていますし、以前から学芸大学のほうの学生さんも公民館にいろいろと参加してくださっています。

やはり、地域に私たち社会教育の者も進んで入っていくということも1つ大事ですし、そういう異世代の学生さんたち取り込んでいくことで、学校、地域が活性化する、人と人が交流することで活性化していくことをすごく感じた発表だったと思います。

この第2ブロックの研修会については来年度大きな課題がありまして、国分寺市が幹事市になります。このことについては、後半にまた話をさせていただきたいと思っています。

では、この件についてよろしいでしょうか。

事務局 : ありがとうございます。では、副議長から、協議事項として「子ども若者・子育ていきいき計画について」、お話しいただければと思います。

副議長 : 子ども若者・子育ていきいき計画について、前回の社会教育委員の会議から今回の社会教育委員の会議までの間に、実は会議は開催がありませんでした。この間、少しご説明したとおり、まず1つの理念がありまして、そこから3つの目標があり、それに対してどのような施策がぶら下がっているかというところを前回は見ていただきました。その中で基本目標の1つ目は、やはり子ども基本法ができたということで、子どもの権利をしっかりと守っていくというところがあります。

基本目標2つ目としては、家庭を支えていくというところで、いろいろな家庭があるので、いろいろな家族の形や暮らし方があることを理解して、全ての家庭が必要な助けを途切れなく受けられるようにしますということ。基本目標の3番目が、かなり社会教育に近いところで、子どもや若者、子育てをしている人たちが自分の住んでいる地域で安心して育ち、子育てができるように環境を整えますというところ。子育て環境とか他の地域とのつながりのようなものを作っていき、地域に居

場所がある状態にしていくというのが基本目標の3番目です。

この構成については前回説明したものと全く変わっておりません。今の段階としてはパブリックコメントに、25日ぐらいから入ると思います。パブリックコメントを開始したことが市報に出ると思いますのでぜひご一読いただき、何でも構いませんので、ご意見を頂けると反映していけるかというところがあります。

取りまとめは、この後2月とかで、3月末に計画策定という感じになると思います。そういう意味ではスケジュール的にはまだ時間はあり、パブコメが終わった後に会議が2回あると思いますので、その中で反映したり取り入れられる要素がたくさんあるのではないかなと思っています。

何かお気づきの点がありましたら、ぜひ皆様のご意見を寄せていただけるとありがたいと思っております。

以上です。

議長 : ありがとうございます。せっかくなので、いきいき計画の案、子ども版ですが、見て何かお話がありますでしょうか。ご質問でも何でも結構です。

副議長 : 先ほどの子ども向けのチラシの中の、例えば自治会でやっているイベントなども、子どもが直接行けるものは探せば結構あると思います。要するに担当課では掌握し切れないものもあると思いますので、ご意見をいただくと、やはり市民の声という感じでいいのではないかと思います。

A委員 : 自治会の話で、例えば地域でお祭りをやっているところも居場所になったり、自治会のほうで子どもに対してどういう考えを持っているかもお聞きできたらいいかと思っていました。

もう1つ、今日、私のほうで資料を提出させていただきましたが、新町で11月16日に樹林地祭りというのがありました。この樹林地祭りのときに、障がい者の関係の方がいらっしゃいました。この樹林地のすぐ横にオハナというNPOの障がい者施設があり、その方たちが就労で苗を育てています。障がい者の方たちのすぐそばにそういう居場所があり、祭りには、近所のご家族の方やご老人の方もいらっしゃいました。オハナで働く障がい者の方たちもたくさんいらっしゃって、さまざまショップが並び、クッキーを焼いたり、綿あめ、飲み物など物を売ったりという中に、子どもたちと障がい者の方たちがわいわいやっているようなお祭りでした。オハナの理事長の方がかなり熱く、私たちは地域にこういう場所を求めていますと言っていました。地域の方たちと触れ合える場所を私はこの樹林地に求めますというお話を熱くなさっていました。

子どもたちの居場所という部分にも引っかけますし、それから地域の中でご家族でその樹林地を訪れたときに、すぐそばに障がい者の方がいらっしゃって、そのところで声かけができたり交わったり、知るきっかけになるこの樹林地計画というのはある意味、社会教育に関連してくるような感じを強く持ちました。

副議長 : ありがとうございます。今のようなお話はとても大事だと思っています。どうしても計画みたいなものは、この対象にはこの施策がありますというものが強くなりますが、子どもたちの居場所や、学びや、遊びが豊かになる場所は、そのようなコラ

ボレーションがある、自然発生的に交流があるところだと思います。そのような要素の大切さみたいなことを、本当に折に触れて言っていくことが必要かと思います。そのような事例も挙げて、こういうのも居場所ではないか、そういう声をどうやって反映しようかというのは検討材料になるので、ぜひお願いしたいと思いました。

A委員 : 12月の会議のそのときにまた報告させてください。

議長 : そうですね。今回、子ども若者・子育ていきいき計画の案が出てパブコメがかかりますので、まずはこの計画のパブコメにご意見が出せるように、しっかり読み込んでいきたいなと思います。何かこの協議事項の中でご質問やご意見はありますか。

C委員 : 今日頂いた子ども若者・子育ていきいき計画の案の中の国分寺の遊び場について紹介してあるページがあって、そこにはプレイステーションのことと、それから青空ひろばのことが書いてありますが、学校から帰った後の居場所づくりということにも当たるのかと思います。その中には「『夕暮れカフェ』があります」と書いてありますが、実はよく知りませんでした。このような紹介、青空ひろばについてもっと市民、お子さんがいる保護者に伝わるような形でPRしていく必要があると思いました。

学校現場の我々、学校に勤めているような者、あるいは教員にも伝わるようなアピールがされるといいと思っています。

国分寺市内のいろいろな地域に住んでいる子どもが、割と気軽に行けるような場所が何か所もできるといいとも思っています。

A委員 : やはり中学、高校、その辺の年齢の人たちの居場所というのは、どうしても本人任せになってしまう部分があります。都心に行ってしまうよりも、やっぱり地元でそういう居場所ができたらいいのではないかと思います。

今、子どもたち1人1人に応じた多様な学びはとても大事だと思います。ただ今は、1人で学んだり1人でバーチャルでできたりするので、担当の大人とは関わりができませんが、一般の国分寺の大人との接点が最近の子どもたちはとれなくなっているのではないかという気がします。

子どもたちの学びというのは、ただものを知ったり勉強したりするだけが学びではないと思うので、社会教育の視点から見たときの学びという、今、だんだん閉塞的になっている方の学びを、いかに私たちが社会教育の立場で広げていけるかが大事だなと思っています。

議長 : プレイステーションのこの夕暮れカフェというのは、中学生や高校生の居場所というところで、国分寺市としては画期的であったのではないかと思います。部活が忙しいとか、塾に通うのが忙しいとか、子どもたち自身も空いている時間が少ないこともありますし、今、いろいろお話が出た安心・安全を優先にすると、なかなか地域の大人、要するに違う世代との交流というのが難しいと保護者の方も心配される部分はあると思います。せっかく5つある図書館とか公民館が、個々人の利用がある中で、集団としての活動を模索していくことがあってもいいのかと思いました。

副議長 : 施設を使うときに、コラボレーションがあったり、いろいろな世代と交流があったり、自然な教育的な営みが担保されるような居場所の作り方をどんどんやっていか

ないといけないということを言われるといいなと思いました。

議長 : そうですね、市役所の跡地に建つ複合施設も、たくさんのフリースペースを設けて、それぞれの人たちが自由に過ごせるような場所になっていくとも見守っていく必要があるとは思いますが。

D委員は、何かありますか。

D委員 : この計画とは少し別な話になりますが、子どもたちが地域の大人たちと交流する中で、もっと自分の住んでいる国分寺を好きになって、将来大人になっても国分寺に住み続けたい、また、国分寺で働きたい、そういう気持ちを持ってもらうために、学校指導課では地域に根差した教育を推進し始めています。

それで重要になってくるのが、いわゆるコーディネーターといわれる立場で、学校と地域をつなぐ役割の人材、学校と地域をつなぐ方、コーディネーターを今、いろいろな学校で探しています。

こういったことを推進、発展していくためには、学校指導課だけでは広げるのに限界があると思います。社会教育課と学校指導課がより連携して、こういうプロジェクトは取り組んでいく必要があるのではないかというのが私の個人的な意見です。

議長 : ありがとうございます。学校、特に小学校、中学校というのは義務教育でしっかり授業を進めていくというのはとても大事なことで、学校指導課を中心に国分寺の各学校が取り組んでいると思いますが、今、国分寺に住んでいる子どもたちが地域を学び、地域で生きていくという、そういう学びも一方ではとても大切ですね。

国分寺は図書館や公民館が地域に5つある、それぞれ学校のそばにあるというのは、とても恵まれた配置だと思っています。図書館はそれぞれエリアの学校の学習指導を支援していく、学校図書館と連携をしながらやっていくという、司書さんや先生たちとの交流の場も設けられていると思いますので、そういうところを通して、社会教育課と学校指導課の連携はいいことだと聞いていて思いました。社会教育課が取り組んでいる地域の人材バンク的な、正式名称は何でしたか。

事務局 : 人材バンク制度です。

議長 : そうですね。人材バンク制度、公民館とも少し連携して何とか広げられないかと模索した時期もありましたが、なかなか体系化、組織化が難しい部分ではありますが、地域にこういう大人がいて、こういう活動をしていて、こういう支援をしたいというところを広く伝えていく1つのツールになるのではないかとずっと思っています。人こそ財産ということもありますので、社会教育課としてもまた少し力を入れていただけたらいいのではないかと思いました。せっかくだといる人材をどう地域で生かしていくかと、それもまた社会教育の流れとしてはとても大切なことではないかと思えます。行政も、それから私たち委員もそういうコーディネーター的な輪を作っていけるように考えていけたらいいのではないかと思います。こちらのいきいき計画については、また皆さんそれぞれ取り組んでいただきたいと思えますし、また、今日はとても広がりのある話のできたので、そういうのをまた次の会に生かしながら、私たちも取り組んでいけたらいいかなと思っています。協議事項は以上でよろしいですか。

副議長 : ありがとうございます。

議長 : では、その次に進みます。

事務局 : 先ほど議長からもお話がありました第2ブロックの研修会、来年度は国分寺市が幹事市になります。資料2-2を配布しております。こちらが令和元年から今年度までの第2ブロックで各市が行ってきた研修のテーマや内容についてまとめたものです。令和元年は国分寺市が担当ということで、「学びが循環するまちの実現を目指して～郷土愛を育むために～」、活動報告、詳しい資料は後ろにつけていますが、赤米について報告しているところです。

令和2年は東大和、武蔵村山、立川、それぞれがこの内容で進めているというところで、こちらを参考にまずご確認いただければと思います。

資料2-3です。こちらのほうが令和元年の活動報告ということで、飯沼さんと根岸さんに報告の発表をしていただいています。

これを基に来年度、どういうことができるのかというところを少し考えて、例えば次回とかまでにご意見を頂けるといいのかと事務局では考えております。

議長 : テーマを決めた上でどんな内容の研修にしていくのか、それに当たっては誰が登壇者になっていただくのかというあたりを今後検討していく形になるかと思えます。令和元年に国分寺市がやったときには、国分寺市の社会教育委員の活動の1つとして取り組んでいた赤米の話を社会教育委員が報告したというケースになると思えます。その当時の中身については資料を事務局がつけてくれていますので御覧になってみていただいて、こういう感じの報告をしたのだというのを共有したいと思えます。

その上で、令和7年度の第2ブロックの研修会ではどんなテーマで報告をして、研修会をしていくかというあたりのところを、次回以降ちょっと話を進めていきたい、もちろんこれがメインテーマになるかどうか、もう少し探りたいと思いますが、1年後には研修会をしないといけないので、どのようにしていくかを考えていきたいと思っています。

今日はまだそこまでいかないで、この程度で終わりにしたいと思いますが、国分寺らしさが出るような、それから今、学校で取り組んでいることなんかも含めて、広く考えていきたいと思えます。

事務局 : そろそろお時間ですので、次回またご検討いただければと思います。

最後、資料4ですが、社会教育委員連絡協議会の研修会、町田の市民フォーラムで12月14日に開催されます。もしご出席ができる方はまだ間に合いますので、事務局にご連絡を頂ければと思います。

— 了 —